

令和元年6月18日現在

機関番号：37405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12015

研究課題名(和文)日本語版ワーク・ファミリー・エンリッチメント尺度の開発

研究課題名(英文)Development of Japanese version of Work-family Enrichment Scale

研究代表者

山口 善子(Yamaguchi, Yoshiko)

活水女子大学・看護学部・助教

研究者番号：40589610

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、仕事と家族役割遂行で得られる豊かさ(ワーク・ファミリー・エンリッチメント)を測定する尺度の日本語版を開発し、信頼性と妥当性及び再現性を検証することを目的とした。2016年は、尺度の著者に日本語版作成について許可を得て逆翻訳・順翻訳を行い、日本語版尺度を作成した。2017年には、作成した日本語版尺度の信頼性・妥当性及び再現性を検証する質問紙調査の準備を行った。2018年は、看護師及び一般企業就労者に対し、日本語版尺度を用いた質問紙調査を行った。その後、作成した日本語版ワーク・ファミリー・エンリッチメント尺度：短縮版の内的一貫性、予測的妥当性、弁別的妥当性を検証した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、仕事をしながら家事や子育て、介護など家族としての役割を担う個人が増加している。本研究で開発した日本語版ワーク・ファミリー・エンリッチメント尺度は、仕事と家族役割の両立は、困難さだけでなく、仕事生活と家族生活の双方に豊かさを与えることについての実証研究に寄与できる。また、本尺度は英語原版尺度の日本語版である。本研究で開発した尺度を用いることで、諸外国と比較研究も可能となる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to create Japanese version of A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE, then confirm its reliability and validity. First year (2016), we at first to gain permission of translation of the scale from author, then conducted forward translation and back translation of the scale. Second year (2017), we finally created Japanese version of A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE, then have prepared enforcing survey with using Japanese version of A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE. Final year (2018), we have conducted the survey which target was nurses and general workers. Japanese version of A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE indicated that sufficient internal consistency, additionally its predictive and discriminatory validity were examined.

研究分野：看護管理

キーワード：尺度開発 ワーク・ライフ・バランス 組織マネジメント

1. 研究開始当初の背景

我が国では近年、女性の社会進出の増加とともに、仕事と家事、育児、介護など家族としての役割をともに担う個人が増加している。仕事と家族役割という異なる役割を担う時、個人は限られた時間や労力の配分に困難さを感じることもある。この困難さは、ワーク・ファミリー・コンフリクト¹⁾と呼ばれ、1980年代より欧米を中心に実証研究が積み重ねられている。諸外国の先行研究では、仕事や家族生活に関するストレスが先行要因であること²⁾、性別、既婚・未婚の別の影響はほとんどない³⁾こと、心身の健康⁴⁾や職務満足⁵⁾に負の影響を及ぼすこと、離職意思を高める⁶⁾ことが報告されている。日本でも、子どもを持つITエンジニアを対象とした研究で、ワーク・ファミリー・コンフリクトは抑うつに関連する⁷⁾、子どもと同居している親である一般労働者を対象とした研究で、ワーク・ファミリー・コンフリクトは離職意思に関連する⁸⁾と報告されている。日本の看護師に関しては、既婚または子どもを持つ女性看護師を対象とした研究で、ワーク・ファミリー・コンフリクトは蓄積疲労に関連する⁹⁾、訪問看護師を対象とした研究で、主観的健康感と訪問看護就業継続意思に負の影響を及ぼす¹⁰⁾ことが報告されている。

しかし、仕事と家族の一員としての責任を担い、双方の役割を遂行する個人は、困難さだけではなく、仕事で得た知識、スキル、技術等を家族役割遂行に活かせる、また家族役割遂行で得た知識、スキル、技術等を仕事に活かせるなど、仕事と家族役割をともに遂行することにより得られる豊かさを認識することもある。この認識は、ワーク・ファミリー・エンリッチメント¹¹⁾と呼ばれ、2000年代に入ってから諸外国で実証研究が多く行われている。ワーク・ファミリー・エンリッチメントは、職場の上司や同僚、家族のサポートや仕事を裁量する自由があると認識しやすいこと、既婚者や子どもを養育している者は感じやすいこと¹²⁾、職務や家族生活の満足度に関連する¹³⁾こと、また、イタリアの看護師を対象とした研究では、離職意思を低下させる¹⁴⁾ことが報告されている。しかし、日本では諸外国の先行研究結果と比較することが可能な、仕事と家族役割を遂行することにより得られる豊かさ(ワーク・ファミリー・エンリッチメント)を測定できる尺度が無い。

2. 研究の目的

仕事と家族役割遂行で得られる豊かさ(ワーク・ファミリー・エンリッチメント)を測定する尺度(A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE; 原版英語)の日本語版を開発し、信頼性と妥当性及び再現性を検証する。

3. 研究の方法

1) 日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の作成

2016年度は、日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE を作成することを予定とした。本研究代表者が、A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の開発著者である Dr. Kacmar, K, Michele に、尺度の日本語版を開発することについての許可を得た後、共同研究者とともに A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE を日本語へ翻訳(順翻訳)し内容を検討した。その後、A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の内容を知らない翻訳業者に、研究者らが作成した日本語版尺度の英語への翻訳(逆翻訳)を依頼した。そして、翻訳業者が英語へ逆翻訳した日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE を、尺度開発著者へ送付し、内容の確認を依頼した。結果、尺度開発著者より、尺度の内容の一部が英語原版尺度の内容を反映していないとの指摘を受けた。その後、指摘を受けた内容について再度検討し新たな日本語版尺度を作成し、逆翻訳を終了した。

2) 日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE を用いた調査の準備

2017年度は、日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE を完成させ、作成した日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE を用いた質問紙調査準備を予定とした。前年度に引き続き、日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の文言、内容等について、英語原版著者とやり取りを繰り返し、2017年2月に英語原版著者より日本語版尺度について承認を得た。その後、日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の信頼性・妥当性を検証するための調査に用いる質問紙の内容を検討した。先行研究を参照し、英語原版著者が実施した方法を参考に、ワーク・ファミリー・エンリッチメントの先行要因となる変数、関連する結果変数等を検討し、各変数を測定するための尺度を検索した。尺度の検索を行う中で、ワーク・ファミリー・エンリッチメントの先行要因とされる、仕事及び家族負荷を測定する尺度の日本語版が見つからず、英語版尺度を使用することとした。2017年8月に仕事及び家族負荷尺度の英語版著者(Dr. Matthews, R. A)に、仕事及び家族負荷尺度の日本語版作成について許可を得て、順翻訳、逆翻訳を行い、2017年11月に英語原版著者より、日本語版仕事及び家族負荷尺度の内容について承認を得た。その後、調査に用いる質問紙調査票を完成させ、2018年2月に活水女子大学倫理委員会へ研究調査の倫理申請をした。2018年3月、申請した研究調査は「条件付承認」となり、倫理委員に指摘された内容について修正を行った。

3) 日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の信頼性・妥当性及び再現性を検証する調査の実施

2018年8月に研究実施について倫理委員会の承認を得た。その後、64か所の事業所(病院4か所、介護老人保健・福祉施設20か所、訪問看護事業所34か所、一般企業6か所)より本研究参加の承諾を得た。本研究では、尺度の再現性を検証するために、研究対象事業所に対し同じ質問紙を用いた2回の調査参加を依頼した。上記64か所の研究参加承諾事業所のうち、40か所の事業所(病院3か所、介護老人保健・福祉施設12か所、訪問看護事業所22か所、一般企業3か所)からは2回の調査参加について承諾を得た。2018年10月~2019年3月まで、本研究参加を承諾した事業所に勤務する看護師及び就労者に対し、日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE を用いた質問紙調査を行った。

4. 研究成果

1) 質問紙調査票の配布と回収

1回目の調査では、質問紙調査票の配布は872人(看護師685人、一般企業就労者187人)、回収は755人(看護師571人、一般企業就労者184人)で、回収率は86.5%であった。有効回答数は707人で、有効回答率は93.7%であった。

2回目の調査では、質問紙調査票の配布は727人(看護師640人、一般企業就労者87人)、回収は532人(看護師452人、一般企業就労者80人)で、回収率は73.1%であった。有効回答数は509人で、有効回答率は95.6%であった。

2) 日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の信頼性

日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE のクロンバック 値は、1回目の調査では、仕事により家族生活が豊かになる; work to family enrichment ($r = 0.866$)、家族役割遂行により仕事生活が豊かになる; family to work enrichment ($r = 0.814$)であった。2回目の調査では、仕事により家族生活が豊かになる; work to family enrichment ($r = 0.850$)、家族役割遂行により仕事生活が豊かになる; family to work enrichment ($r = 0.795$)であった。

3) 日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の予測的妥当性

日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の測定値は、1回目の調査では、離職意思と有意な負の相関(仕事により家族生活が豊かになる; work to family enrichment ($r = -.381$)、家族役割遂行により仕事生活が豊かになる; family to work enrichment ($r = -.289$))、職場を辞める意思と有意な負の相関(仕事により家族生活が豊かになる; work to family enrichment ($r = -.384$)、家族役割遂行により仕事生活が豊かになる; family to work enrichment ($r = -.299$))、主観的健康観と有意な正の相関(仕事により家族生活が豊かになる; work to family enrichment ($r = .180$)、家族役割遂行により仕事生活が豊かになる; family to work enrichment ($r = .189$))を示した。2回目の調査でも、日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の測定値は、離職意思及び職場を辞める意思と有意な負の相関、主観的健康観と有意な正の相関を示した。

4) 日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の弁別的妥当性

日本語版 A SHORTENED WORK-FAMILY ENRICHMENT SCALE の測定値は、1回目の調査では、ワーク・ファミリー・コンフリクトと有意な負の相関(仕事により家族生活が豊かになる; work to family enrichment と仕事のため家族役割ができない葛藤; work interference with family ($r = -.356$)、家族役割遂行により仕事生活が豊かになる; family to work enrichment と家族役割のため仕事ができない葛藤; family interference with work ($r = -.122$))を示した。2回目の調査では、仕事により家族生活が豊かになる; work to family enrichment と仕事のため家族役割ができない葛藤; work interference with family は有意な負の相関($r = -.337$)を示した。家族役割遂行により仕事生活が豊かになる; family to work enrichment は、仕事のため家族役割ができない葛藤; work interference with family と有意な負の相関があった($r = -.167$)。

文献

- 1) Greenhaus J.H. and Beutell N.H. 1985. Source of Conflict Between Work and family Roles, *Academy of Management Review*, 10(1), 76-88.
- 2) Hargis MB, Kotrba LM, Zhdanova L, Baltes BB. 2011. What 's really important? Examining the relative importance of antecedents to work-family conflict. *Journal of Managerial Issues* 23 (4), 384-408.
- 3) Byron K. 2005. A meta-analytic review of work-family conflict and its antecedents. *Journal of Vocational, Behavior*. 67 (2), 169-198.
- 4) Frone, M, R. 2000. Work-family conflict and employee psychiatric disorders: The national comorbidity survey. *Journal of Applied Psychology*, 85(6), 888-895.

- 5) Carly, S, B, Tammy, D, A and Paul, E, S. 2002. The relation between work-family conflict and job satisfaction: A finer-grained analysis, *Journal of Vocational Behavior*, 60, 336-353.
- 6) Lillian, T, Eby, et, al. Work and Family research in IO/B0: Content analysis and review of the literature (1980-2002), *Journal of Vocational Behavior*, 66, 124-197.
- 7) Watai, I, et, al. 2008. Gender Difference in Work-Family Conflict among Japanese Information Technology Engineers with Preschool Children, *Journal of Occupational Health*, 50, 317-327.
- 8) 吉田悟. 2007. ワーク・ファミリー・コンフリクト理論の検証, *人間科学研究 (文京大学人間科学部)*, 77-89.
- 9) Takeuchi, T and Yamazaki, Y. 2010. Relationship between work-family conflict and a sense of coherence among Japanese registered nurses, *Japan Journal of Nursing Science*, 7, 158-168.
- 10) 山口善子. 2013. 訪問看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトが主観的健康感と訪問看護就業継続意思に与える影響, *日本看護管理学会誌*, 16(2), 111-118.
- 11) Greenhaus, Jeffrey H., and Gary N. Powell. 2006. When work and family are allies: A theory of work-family enrichment, *Academy of Management Review*, 31(1), 72-92.
- 12) Laurent M. Lapiere, et, al., 2017. A Meta-Analysis of the Antecedents of Work-Family Enrichment, *Journal of Occupational Behavior*, DOI:10.1002/job.2234, 1-17.
- 13) Kacmar, K. M., et, al. 2014. A short and valid measure of work-family enrichment. *Journal of Occupational Health Psychology*. 19, 32-45.
- 14) Russo, M and Buonocore, F. 2012. The relationship between work-family enrichment and nurse turnover, *Journal of Managerial Psychology*, 27(3), 216-236.

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 0 件)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕
出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。